



夏
2025

vol 170



音楽のある街高崎

TAKASAKI MUSIC FESTIVAL

音楽の交差点
高崎音楽祭



音楽の交差点 高崎音楽祭



『心に響く音の風景に 出会ったことがありますか』

「音楽のある街 高崎」という言葉と共に、1990年、産声を上げた高崎音楽祭。

クラシック、ジャズ、ポップス、邦楽、ラテン—

ジャンルも国境も越えた音楽がこの街に集まり、交差し、響き合う。

この期間、会場となる高崎芸術劇場だけでなく、街のさまざまな場所が少しずつ劇場へと姿を変えていく。

アーティストと観客、異なる音楽が行き交い、出会い、思いがけない共鳴と感動を生み出す。

第36回となる今年の高崎音楽祭も、今秋、18日間にわたって開催される。

ジャンルの垣根を越えて構成されたプログラムは、音楽ファンをひきつけてやまない。その魅力に迫る。

高崎でしか聴けない音楽を 手作りのプログラムを続けて36年

高崎音楽祭は、高崎市制90周年の記念事業として1990年にスタートした。1回目のメインコンサートは、「アルゼンチンの風」。アルゼンチンのチャランゴ奏者であるハイメ・トレス、アルゼンチンタンゴのピアニスト、オマール・バレントといったアーティストを招き公演が行われた。その他チェコの国民的歌手マルタ・クビシヨヴァと群馬交響楽団とのジョイントコンサートなどを行い、国際的な音楽祭としてスタートした。

「高崎でしか聞けない音楽を楽しんでもらいたいという思いから、既製品のコンサートを買わずに、手作りのプログラムを積み重ねてきました。良い音楽であれば、特定のジャンルにこだわることなく、



パンフレットの表紙は高崎で展示経験のある若手のアーティストにイラストを依頼。今年はChocoomooの予定。

あえてテーマも設けませんでした。コンセプトがないというのがコンセプトですね」と話すのは、2回目より音楽祭委員として携わり、現在は実行委員長を務める平井誠一さん。「97年の加山雄三さんと群馬交響楽団とのコンサートでは、加山さんは歌うだけでなく、指揮を振ったりもして思い出深いコンサートでした。アーティストの皆さんも、ここでしかできないコラボレーションやツアーではできない音楽をプレイすることを楽しんでくれています。それが積み重なって現在にも繋がっています」

音楽を愛する人たちへ 音楽と食が融合するライブ

2019年から会場となっているのが高崎芸術劇場。ホールの特性によりさらに幅広い音楽や様々な企画が立てられるようになったという。「舞台の大きさや客席をアレンジできるスタジオシアターは色々な使い方ができます。食事をしながら音楽を楽しんでもらうコンサート



「戦後の高崎市民オーケストラの設立から始まり、群馬音楽センターの建設など高崎には音楽を受け入れる体制があり音楽祭の開催に繋がった」と話す平井さん。



ダイニングノーツのチケットには、1ドリンクと創作グルメボックス付き。演奏中、自席からの出入りは自由なので、ドリンクを追加注文することができる。

DINING NOTESは、長年温めてきた企画ですが、このホールだから実現できなかった。これぞまさに音楽祭でしかできないプログラム。初回からお客さんからの反応も良く、もっと多くの人に知ってほしいです」(平井さん)

DINING NOTESは、非日常空間が広がるライブレストラン形式の公演。これまで山中千尋、渡辺香津美、阿川泰子、馬場智章といった日本を代表するジャズミュージシャンが出演している。今年も、orange pekoe がバンドセットで、トップピアニスト大西順子のセクステット、日本のレジェンドジャズドラマー森山威男と妥協のないラインナップでお送りする。

**今年もアニバーサリーステージ
挑戦を続けるラテンバンド**

音楽祭発、2つのオリジナル公演を紹介したい。

まずは、熱帯JAZZ楽団。熱帯JAZZ楽団は、1995年に結成されたラテンジャズバンド。メンバーには日本を代表する



ミュージシャン18名が名を連ねる。パークシヨニストでプロデュサーのカルロス菅野さんに話を聞いた。「94年に初めて、サルサバンド、オルケスタ・デ・ラ・ルスメンバーとして音楽祭に出演しました。

2日間の公演で、1日目はSING LIKE TALKINGとの共演。2日目はサククスやドラムを追加したビッグバンドでトロピカル・ジャズ・オールスターズという名前で演奏をしました。バンドの雰囲気は良くて、この時にビッグバンドをやるうーと決め、デ・ラ・ルスを脱退後、熱帯JAZZ楽団を結成しました。だから高崎音楽祭が結成のきっかけですね」

熱帯JAZZ楽団としての初出演は97年。渡辺真知子さんとカシオペアとの共演だった。毎回違ったゲストシンガーとの共演も楽しみのひとつ。共演アーティストの選定にはいつも頭を悩ませるが、バンドとしても挑戦ができて楽しいと言う。アーティストと打ち合わせを重ね、持ち歌などを織り交ぜながらお互いが楽しめる選曲に。アレンジは、ゲストの素晴らしさや意外な一面を引き出せるように心がけている。

「高崎音楽祭には『ここに来れば良い音楽に出会える』という期待を持ってくださる方や、音楽をニュートラルな姿勢で受けとめてくださる方がお客さんとして来てい



今年結成30周年。日本のラテン音楽シーンをリードし続けている熱帯JAZZ 楽団。



「今でも初めて出演した時の音楽センターの楽屋やステージの雰囲気鮮明に覚えている」というカルロスさん。

ると感じています。だからこそ、意味のある公演にしたいという気合いが入ります」

今年の公演は、結成30周年を記念し、城田優さんと福原みほさんをゲストシンガーに迎える。「ここ数年、私自身がポーカーとして歌うことが多くなりました。最近ではミュージカルから歌のあり方やインスピレーションを受けています。ラテン音楽とは別世界だと思っていたミュージカルですが、その表現に触れるうちに強く惹かれるようになりました。そこで今回多方面で活躍している城田さんに出演をお願いしました。福原さんは、ビッグバンドを背負っても負けない歌唱力のあるシンガー。異色の顔合わせとも言える2人。どんな舞台になるのか私自身も楽しみです」

まさしく高崎ならではの音楽体験が期待できる公演は、10月8日に行われる。

**故郷への恩返し思いも込めて
親子が自由に楽しめるひとときを**

高崎出身の音楽家吉田みさおさんが高崎音楽祭に初めて出演したのは、2000年にJungle Smileとして。せつ

かくの故郷での公演。地元でコラボレーションしてみてはどうかとの話を受け、母校である片岡中学校の生徒に合唱として参加してもらい、自身が作曲した「翔べ！イカロス」という曲を披露した。学校に通い練習をして仕上げた感動的なステージだったと振り返る。

そんな吉田さんが4年前から出演・プロデュースするのが「0歳から親子で楽しむ初めてのオーケストラ 高崎こどもコンサート」。「以前からやってみたかった企画を出身地である高崎で作ることができて嬉しい」と話す。「以前、自分の子どもとコンサートに行ったことがあります。格式が高く、静かにするという制約がありました。これは子どもにとって大変らしいこと。また親だつて子どもが小さいうちはコンサートに行きたくても行けない。これはとても残念なことだと思ったのがきっかけです。子どもと親と一緒に楽しめるコンサートを作りたいと始めました」

子どもが集中して聞ける時間を計算し、コンサートは休憩を挟んで75分。昨年演奏したのは「カルメン」「クラリネット・ポルカ」「山の音楽家」「フニクリフニクラ」など全13曲。クラシックの名曲や子ども向けの歌まで、子どもだけでなく親も楽しめる楽曲を選ぶ。クラシック曲は、耳馴染みのある旋律だけを編曲して演奏するなど、吉田さんならではの工夫が凝らされている。コンサート中は、オーケストラの演奏



出演者は、子どもに喜んでもらえるようカラフルなドレスを着用。笑顔で手を振るなど普通のオーケストラでは見せない表情もこのコンサートならではの。



吉田さんは「高崎芸術劇場は良いホール。多くの世代にここで音楽を聴いてほしい」と話す。

に混じって、子どもの口ずさむ声、おしゃべり、拍手、そして泣き声が入り混じる。会場ロビーには、風船が飾られ、育児用ミルクやお菓子のサンプルなどの無料配布、木製の楽器で遊べるなど、会場全体に「音楽を楽しんでもらおう」という思いが散りばめられている。

演奏するのは、このコンサートのために結成された「びーかぶうオーケストラ」で、メンバーには、国内のオーケストラなどで活躍する一流ミュージシャンが揃う。

今年もゲストには、NHKうたのおねえさんとして著名な小野あつこさんが登場する。「4年開催して、出演者とお客さんとの間に血が通ってきたと感じています。割りときやいな高崎の子どもたちが、指揮者体験コーナーでは元氣よく手を上げてくれるようになりました。子どもの音楽体験の入門としても来ていただきたいのですが、子育て期間中のお父さん、お母さんを応援したいですね。子どもと一緒に気兼ねなく楽しんでもらいたいです。今後は、高崎から全国へこのコンサートを広めていけたらと思っています」

コンサートの締めくくりには、吉田さんの作ったテーマソング「ちいさなて」が演奏される。1年に一度高崎音楽祭でのみ披露される楽曲。歌詞カードが配布されるので、ぜひ一緒に歌ってほしい。

**音を聴き、踊り、食べて、語らう
心と体が喜ぶ18日間**

「初出演は、スターダスト☆レビュー、東京六人組、鼓童、堺正章 to MAGNETS、菊池洋子といった顔ぶれ。例年出演しているゴスペラズは1年に一度のビッグバンドとのコンサートをを行い、毎年全国各地からファンが集まります。松井常松さんとSISAYとのコラボレーションや古謝美佐さんと玉城千春さんによる沖縄音楽など、今回もジャンルの異なる音楽が一同に集まります。私自身も楽しみにしています。この機会にぜひ皆さんに足を運んでいただきたいですね」と平井さん。

ジャンルも世代も越えて、あらゆる音楽が一堂に集う高崎音楽祭は、まさに「音楽の交差点」と呼ぶにふさわしい場となっている。

今年も高崎芸術劇場を中心に、多彩なアーティストが集い、街のあちこちで新たな音楽の風景が描き出されていく。

知らなかった音楽に出会い、誰かと感動を共有する。

ぜひ音楽の交差点で、あなた自身の音楽とそんな体験に出会ってほしい。

第36回高崎音楽祭

公演詳細は高崎音楽祭 HPへ <https://www.takasakiongakusai.jp>



大橋トリオ

9月26日(金)
19:00開演(18:30開場)
■スタジオシアター



菊池洋子&郷古廉と N響の仲間たち

10月5日(日)
14:00開演(13:30開場)
■音楽ホール



大友直人指揮・群馬交響楽団 オープニング演奏会

9月27日(土)
16:00開演(15:00開場)
■大劇場 公募



熱帯JAZZ楽団 30th Anniversary With Voices

10月8日(水)
19:00開演(18:00開場)
■大劇場



スターダスト☆レビュー 45周年ツアー2025~27 「星屑冒険王」

9月28日(日)
17:00開演(16:15開場)
■大劇場



土岐麻子・田島貴男

10月10日(金)
19:00開演(18:30開場)
■スタジオシアター



Rei Premium Live

9月28日(日)
18:00開演(17:30開場)
■スタジオシアター



ゴスペラーズ ビッグバンドコンサート

10月11日(土)17:30開演(16:30開場)
10月12日(日)16:30開演(15:30開場)
■大劇場



DINING NOTES Takasaki Jazz 3Days

Orange Pekoe

10月3日(金)
19:00開演(18:00開場)
■スタジオシアター



松井常松×SISAY = Takasaki Music Festival

10月11日(土)
16:30開演(16:00開場)
■スタジオシアター



鼓童 ワン・アース・ツアー2025 in 高崎音楽祭

10月4日(土)
14:00開演(13:00開場)
■大劇場



伊藤文乃×長瀬夏嵐 デュオリサイタル

10月11日(土)
19:00開演(18:30開場)
■音楽ホール



DINING NOTES Takasaki Jazz 3Days

大西順子セクステット

10月4日(土)
18:00開演(17:00開場)
■スタジオシアター



古謝美佐子×玉城千春(Kiroro) Okinawa moon 童神~未来へ

10月12日(日)
16:00開演(15:30開場)
■スタジオシアター



東京六人組

10月4日(土)
14:00開演(13:30開場)
■音楽ホール



シャローネシンガーズ ~時代を超える名曲コンサート

10月12日(日)
15:00開演(14:30開場)
■音楽ホール



堺正章 to MAGNETS

10月5日(日)
17:00開演(16:00開場)
■大劇場



0歳から親子で楽しむ初めてのオーケストラ 高崎子どもコンサート

10月13日(月・祝)
13:00開演(12:15開場)
15:30開演(14:45開場)
■大劇場



DINING NOTES Takasaki Jazz 3Days

森山威男カルテット

10月5日(日)
18:00開演(17:00開場)
■スタジオシアター



大貫妙子×山弦

10月13日(月・祝)
17:00開演(16:30開場)
■スタジオシアター





- 第51回 高崎まつり
8月23日(土)、24日(日)
- 第23回 高崎山車まつり
8月23日(土)、24日(日)
- 大花火大会
8月23日(土)
- 第42回 高崎市技能祭
8月23日(土)、24日(日)

北関東最大の夏祭り「高崎まつり」。開催日2日間は、高崎駅周辺からもてなし広場にかけて、木遣り、和太鼓、阿波踊り、盆踊り、神輿のもみ合いなどが次々に行われ、沿道の来場者と一体となって盛り上がります。同時開催となるのが「高崎山車まつり」。高崎は、江戸型山車の保有台数が日本一で、毎年輪番制で豪華絢爛な山車が登場し、まちなかを巡行します。そして祭り最大の魅力は、50分間の間に1万5千発もの花火が夜空を彩る大花火大会です。「高崎市技能祭」は、はしご乗り実演、だるまの絵付けなど様々な分野の匠の技を紹介・体験する祭りです。熱中症対策は万全に。高崎で1番熱い2日間にぜひお出かけください。

● お問い合わせ

高崎まつり実行委員会
TEL.027-330-5333
<https://www.takasaki-matsuri.jp/>



※技能祭については、高崎市産業政策課 TEL.027-321-1255

■ 第29回 高崎観音山万灯会
9月20日(土) 17:00~21:00
観音山(参道~白衣大観音他)

夏の終わりを告げる観音山万灯会。今年は、秋のお彼岸時に行われます。虫の音の賑やかな秋の夜の観音山で静かにご先祖を偲びつつ観音さまに灯明をお供えするにはふさわしい季節。会場で行われる各種イベントを楽しみながら、1万を越える灯明と1500基の灯籠に照らされ浮かび上がる参道を日頃の感謝と精進の思いを込めてお詣りください。

● お問い合わせ

高崎観音山万灯会実行委員会(慈眼院)
TEL. 027-322-2269
<https://takasakikannon.or.jp>



※駐車台数に限りがありますので、徒歩あるいは交通機関のご利用をお願いします。





「だんべえまんじゅう」と「はにほへとイロ」。日常のおやつから贈答用まで、20種類ほどの菓子が並ぶ。

いつの時代もみんなに愛された甘い味。
高崎の老舗菓子店をご紹介します

昔も今も。高崎で出会える

洋菓子×和菓子

第4回

だんべえ総本舗 風間堂

高崎の和菓子店といえば、 風間堂「だんべえ」

安心で作られた味の味を、変わらぬ製法で貫き伝え続けている和菓子店「風間堂」。埼玉県で五家宝を作っていた菓子店の娘と結婚した初代が、明治31年（1898年）に連雀町に和菓子店を開店。その後田町から現在の新田町へと移転し、現在の店主は、4代目となる風間隆之さんです。

風間堂といえば、店名の由来ともなっている「だんべえまんじゅう」。蜜漬けの白インゲンがのぞくこしあんを、上白糖で仕上げた白、黒糖で仕上げた黒の2種類の生地で包んだ薄皮まんじゅうです。薄皮にしっとりなじむあん。

切り絵の包装も風情があり、素朴でいて至福の甘さが広がる一品です。「だんべえまんじゅうを作ったのは先代。1956年生まれと聞いています。名前の通り方言を思い高崎を代表するお土産を作ろうと開発したそうです」と風間さん。店を引き継ぐ時には、「だんべえだけは変えるなよ」と先代から言われました。そのほかの菓子も昔からのメーカーの同じ食材を使用して、時代に合わせながらもなるべく味を変えないようにしています。

4年前には5代目となる娘の咲紀さんが帰郷。「子どもの頃からお客さんとのやりとりや菓子作りの音を聞いて育った」という生粋

の菓子職人です。「高崎を代表するお土産を作っていきたい」と高崎の食材を使った色鮮やかな琥珀糖「はにほへとイロ」や初夏の山椒大福といった新しい菓子を開発しています。また、「生菓子を持ち帰りたい」という外国人観光客の希望を叶えたいと、和菓子モチーフにした手作り雑貨の販売も始めました。

127年に渡り受け継がれてきた味を大切に、時代に合わせた新しい菓子作りを。新たな風が吹きはじめた名店の味。今日のおやつにいかがでしょうか。



【だんべえ総本舗 風間堂】

- 高崎市新田町1-8
- TEL 027-326-7811
- 営業時間：9:00-18:00
- 定休日：元日、不定休

「継いでほしいと言ったことはなかったのですが、この道に進むと言われた時はうれしかった」という隆之さんと咲紀さん。



観
光
さ
た
か
き
か
い

高崎観光協会 会報 夏号 Vol.170 令和7年 7月 1日発行

発行 一般社団法人 高崎観光協会
高崎市八島町222(高崎モントレー2階) Tel.027-330-5333
http://www.takasaki-kankoukyukai.or.jp

制作 株式会社 SDI総研



SUMMER
2025

Kankou Takasaki / PAGE. 08